



GIGAスクール構想 第2期 始動

学習用端末の導入から5年が経過し、令和7年11月に市立小中学校の児童生徒へ新しい学習用端末を導入しました。文部科学省の基準に基づき、小学校1年生からケース一体型キーボードを使用してタイピング技能の習得を推進するとともに、デジタル教材への書き込みに対応するためタッチペンを貸与しています。

GIGAスクール構想とは、1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校ICT環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、全ての子ども達の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的とした国の教育政策です。

GIGA : Global and Innovation Gateway for ALLの略



第1期では、iPadに触れてみることから始まり、コロナ禍における臨時休校によるリモート授業の開始を契機に活用がさらに進みました。一人ひとりがGoogleアカウントを持ち、協働学習やオンライン学習のほか、連絡ツールとしての利用も定着しました。

第2期では、デジタル教科書・教材の活用、国内外とのオンライン交流、学習データの利活用による個別最適な学びや、生成AIの活用による創造性を育む学びに取り組むことで、ICTを活用した教育のさらなる質の向上を目指します。

いつでもどこでも通信ができるようにするために、セルラーモデルのiPadを配備し、5G通信にも対応しています。

教員にも児童生徒と同じiPadを貸出し、指導者用デジタル教科書・教材の活用をしています。また、各教室には短焦点プロジェクターを整備し、学習用端末の画面を同時に投影できる環境を整え、考えの共有や話し合いを深めています。

第1期に活用したiPadは適切に初期化した上で売却し、新しい学習用端末を導入するための収入源とします。また、一部のiPadは市役所の業務にも活用します。



稻城市のGIGAスクールに関する情報はこちら



学習用端末を利用する際には、稻城市独自の活用ルールを定めています。

- 利用時間の制限
- 学習目的以外には使用はしない
- 写真を撮る時には許可をとる
- パスワードは自分で管理する
- データは指定場所に保存する 等

▷問合せ 指導課指導係

小中学生英語スピーチコンテスト

12月13日(土)、地域振興プラザにて「小中学生英語スピーチコンテスト」を開催しました。本事業は、稻城市グローバルスタディプログラムの一環として、英語による表現力やコミュニケーション力、国際的視野の育成を目的に行っており、今年度からは教育委員会主催で東京稻城ロータリークラブに共催いただきながら開催しました。

小学校5・6年生21名、中学生39名、計60名が参加し、自分の思いや考えを英語で発表しました。原稿は児童・生徒自身が作成しました。

審査は、東京外国语大学大学院総合国際学研究会教授の岡田 昭人氏を審査委員長とし、株式会社アチーブゴールド法人マネジメント部長の佐野綾佳氏、東京外国语大学大学院生のオコナ・パメラ氏、ナラング・サクシ氏、マリーナ・ハビーブ氏

のほか、市立小・中学校の教員に審査員を務めていただきました。

さらに、「国連を支える世界こども未来会議 FUTURE SUMMIT みらい総会(大阪・関西万博)」に参加した中学校1年生の荒木 佑心さん、麻生友奏さん、高波 泉さんによる発表も行われました。

取組を振り返る中で、「とても緊張したが楽しかった」「練習した通り話せて自信になった」といった声が寄せられ、努力の成果を実感した様子がうかがえました。

自分の考えを英語で発信する経験は、他者と協働し、よりよい社会を考える力につながります。この経験を糧に、英語の学習をはじめ、さまざまなことに挑戦し、今後の学びや成長に生かしていってほしいと願っています。

表彰者

小学生の部

最優秀賞 向陽台小学校 6年生 三木 陽道さん

優秀賞 稲城第七小学校 5年生 佐藤 駿さん

若葉台小学校 5年生 高 瑛駿さん

中学生の部

最優秀賞 稲城第六中学校 2年生 大林 愛由梨さん

優秀賞 稲城第二中学校 2年生 太田 弓子さん

稻城第二中学校 2年生 渡辺 樹さん

稻城第四中学校 2年生 八巻 太智さん

稻城第五中学校 2年生 五十嵐 優羽さん

稻城第六中学校 2年生 竹内 志織さん

▷問合せ 指導課指導係

未来を語る中学生会議

11月6日(木)、稻城市役所議会会議室をお借りし、「未来を語る中学生会議」を開催しました。この会議は、昨年度まで実施していた「稻城市長と中学生との懇談会」を発展させたもので、市立中学校の代表生徒が自分の意見を論理的に伝えながら議論を深める貴重な機会として設け、市議会の一般質問形式を模した内容としました。

会議では、生徒からの質問に対して教育部関係管理職が答弁する形で議論が繰り広げられました。さらに各校の代表生徒による意見表明も行われ、未来の稻城市に関する思いと提案が力強く語られました。



▷問合せ 教育総務課教育総務係

中学校職場体験

本市では、地域の事業所の皆様の温かいご協力をいただき、毎年「職場体験学習」を実施しています。生徒たちは実際の職場で働く方々と関わり、仕事の大変さややりがいを体感することで、勤労の意義や社会の仕組みを深く学びます。この体験は、将来の進路を考えるとともに、挨拶や礼儀、コミュニケーションなど社会人としての基礎を身につける貴重な機会です。

地域の皆様のご理解とご支援があってこそ成り立つ教育活動であり、子ども達の成長を支える大切な学びの場となっています。今後とも温かいご協力をお願ひいたします。



令和7年度 中学校
職場体験受入先一覧

▷問合せ 指導課指導係

市立小学校のESD取組紹介

稻城第二小学校

稻作体験学習

令和7年度の稻作体験学習が無事に終了いたしました。春の粉ふり・田植えから、秋の稻刈り・収穫に至るまで、地域の農家、農協の皆様には大変お世話になりました。学年ごとに役割を決め、そのバトンを引き継ぎながら、二小全員でもち米作りに取り組みました。

収穫したもち米は、12月24日(水)の収穫感謝祭「みんなの思いをひとつに」にて餅つきをし、紅白餅にして稻作協力者の皆様に配布し、感謝の思いを伝えました。全校児童にも配布し、各ご家庭で美味しく召し上がっていただきました。

この活動を通して学んだ「感謝の心」「協力することの大切さ」「食の有難さ」をこれからの中学校生活に役立てていきます。



不登校対応合同報告会を実施しました

1月23日(金)、不登校支援の充実を図るため、市立小・中学校が参加する「不登校対応合同報告会」を開催しました。本報告の目的は、誰一人取り残さない学びの環境づくりに引き続き取り組み、教育委員会としても学校だけでなく市全体で子どもたちを支えるための大切な機会をつくることです。

当日は、市立小中学校教員、民生委員、児童委員、学校運営協議会委員、学校支援コンシェルジュ、幼稚園関係者、行政職員、市立小中学校保護者、民間企業等、また市外からも参加し、学校での支援体制や効果的な取組を共有しました。今後、教育と福祉が連携して子どもを支える体制づくりを進めてまいります。



▷問合せ 指導課指導係

「稻城チャレンジクラス」開設

「稻城チャレンジクラス」とは「不登校対応校内分教室」であり、令和8年4月より稻城第五中学校内に開設する予定です。このクラスは、心理的・情緒的な理由などにより登校が難しい生徒を対象とし、生徒一人ひとりの状況に応じた支援と学びの場を提供します。正規教員が担任を務め、スクールカウンセラーや養護教諭、福祉分野等とも連携しながら、少人数でのきめ細やかな支援を行います。週20コマ程度の授業を通じて、安心して学校生活を送れる環境づくりを目指します。



▷問合せ 指導課指導係

